

8 第8学年 社会科 Make the Crossword Puzzle

教育学研究科 科学文化教育学専攻 社会認識教育学専修 庄本 恵子

1 はじめに

学部生の頃、海外の学校の様子や授業について教授や留学生から話を聞くことが時々あった。しかし、海外渡航の経験がなかった私にとって、それらの話はすべてが想像の中で語られることだった。海外の学校の話を知るとき、海外の子どもと日本の子どもはどこが違うのか、学校の中の様子はどんな風になっているのか…といった様々な疑問や海外の学校への興味が湧いてきた。

そんな私にとって、実際の授業を通して子どもと触れ合うことができ、さらに、いくつかの学校の様子を訪ねることができる本研修は、非常に魅力的なものであった。また、社会科の教師を目指しているということもあり、実際の海外の様子を、自分の目で見て確かめて子どもたちに伝えたいという思いもあった。そのような理由から、本研修への参加を決めたのである。

2. 実地研究の日程と概要

－渡航前後－

月日	曜日	時間	内容
4月22日	木	16:20-17:30	渡航までの日程や諸準備の確認、授業研究テーマの設定方法
5月27日	木	16:20-17:30	授業研究テーマ案の交流
6月17日	木	16:20-17:30	授業研究テーマ決定、学習指導案の検討
7月15日	木	16:20-17:30	学習指導案の検討、渡航のための諸手続き
7月17日	土		第6回学校間交流国際フォーラム 懇親会
7月18日	日	10:00-12:00	2010体験型海外教育実地研究授業研究ワークショップ (ウォーレン先生)
8月27日	金	14:40-16:00	学習指導案の検討、教材・教具の作成、渡航準備
9月2日	木	14:40-16:00	直前打ち合わせ、報告書作成及び発表会の打ち合わせ
9月11日～20日 海外渡航			
12月16日	木	16:20-18:30	2010体験型海外教育実地研究 発表会

－渡航期間－

月日	曜日	交通等	訪問地・用務等	泊
9月11日	土		広島－成田 0745－0925 NH－3128 成田－ワシントン 1105－1040 NH－2 ワシントン－ローリー 1235－1340 NH－7144	米国ノースカロライナ州 Greenville City Hotel&Bistro 203W.Greenville Blvd, Greenville,NC27834 TEL:877-271-2616
9月12日	日		事前準備	Greenville 同上
9月13日	月		C.M.Eppes J.H.S (6－8) 訪問 事前打ち合わせ、授業観察	Greenville 同上
9月14日	火		(午前) C.M.Eppes J.H.S (6－8) 訪問 授業実践 (午後) イーストカロライナ大学訪問 昼食・施設見学	Greenville 同上
9月15日	水		St. Peter's Catholic School 訪問 学校・授業見学	Clarion State Capital 302 Hillsborough St. Raleigh, NC TEL:919-832-0501
9月16日	木		(午前) Exploris M.S. 訪問 学校・授業見学 (午後) 博物館見学	Raleigh 同上
9月17日	金	ローリー →ワシントン 1025－1130 NH－7145	ワシントン訪問 アメリカの文化見学	Washington Plaza 10 ThomasCircle,N.W. Washington,DC 20005 TEL:202-842-1300 808-424-1140 Washington DC
9月18日	土	地下鉄等	ワシントン訪問 アメリカの文化・歴史見学 (スミソニアン博物館等)	Washington DC 同上
9月19日 9月20日	日 月		ワシントン－成田 1220-1525 NH－1 成田－広島 I 750-1925 NH－3129	

3. 実地研究授業

3.1 単元名等

第8学年 社会科 “Make the Crossword Puzzle”

3.2 事前準備

海外の子どもたちに授業をする上で、「日本」に関することはできないかと考えた。専攻が社会科ということもあり、日本の歴史や風土、文化など様々なものが題材として浮かんできた。私自身、「日本が世界に通用するもの、世界に誇れるもの、海外に発信したいものは何だろうか？」と非常に悩んだ。そして、いくつかの日本を紹介しているHPやガイドブックを見ていくうちに、授業を受けた子どもが日本に来てみたい！と思えるような授業ができないだろうか、と考えるようになった。

そこで思いついたのが「世界遺産」だった。世界遺産はその国の中でも有名な観光スポットであるとともに、他の国の人々からもよく知られ、行ってみたい場所として名前が挙がる場所である。日本の世界遺産をアメリカの子どもたちに伝えることは、日本の歴史・風土を知ることにつながるので、「日本」という国を学ぶ上で有効な教材になりうる。また、他の国を学ぶことは、自分の国の風土や歴史、文化を見直すきっかけにもなると考えられる。そのため、単に「日本」について知って終わるのではなく、自分の国についても見つけ直すきっかけになる授業づくりを行っていった。

しかし、授業開発の際に一番の課題となったのが「英語」、つまり「言葉」である。私には、その場で世界遺産について説明できるほどの英語力がなかった。そこで教材として①日本の世界遺産を紹介するテキスト、②日本の世界遺産クロスワード、の2つを用意した。

3.3 学習指導案

Lesson plan

Lesson Title : “Make the Crossword Puzzle”

Lesson Author: Keiko Shomoto

Date: September 2010

Grade levels: 6th-8th

Subject: Culture

Description:

In this class, students will know Japanese culture. And, they will introduce their country. I want them to do to the chance to think about their countries again.

Objectives: As the result of this activity, students will be able to

1. Learn about Japanese culture and take an interest in Japan.
2. Introduce their countries.

Materials, resources and Technology:

Crossword Puzzle about Japanese culture, Crossword Puzzle Sheet, Impression form

Procedure

Activity	Teacher's activity	Materials
1. Learn about Crossword Puzzle.	1. Tell today's activity: make a Crossword Puzzle.	
2. Finish the Crossword Puzzle about Japanese culture.	2. Explain how to finish the Crossword Puzzle about Japanese culture. (Indicate that make some group.)	Crossword Puzzle about Japanese culture
3. Make the Crossword about USA.	3. Explain how to make the Crossword Puzzle about USA.	Crossword Puzzle Sheet
4. Introduce the Crossword Puzzle that we made.	4. Let them introduce the Crossword Puzzle that they made.	
5. Write down this lesson's impression on paper.	5. Let them write down this lesson's impression on paper and talk about my impression to the class.	Impression form

3.4 授業の実際

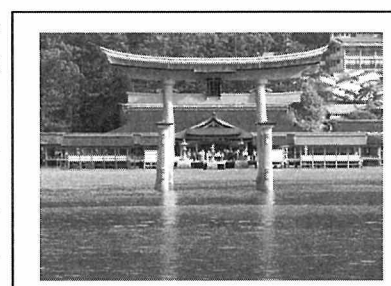
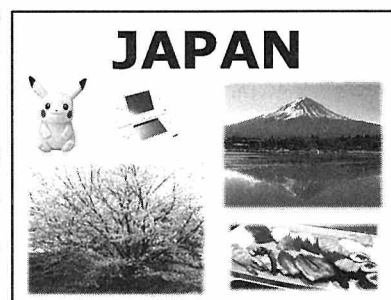
導入では、子どもたちが日本についてどの程度知っているかを知るために、スライドで日本の有名なもの（海外に知られていそうなもの）をクイズ形式で見せた。

続けて世界遺産の写真を見せて「Where were these pictures taken?」「What is the common point in these pictures?」という問いを投げた。ここでは、日本にも自然や建築物などの世界遺産があることを知ってもらうことをねらいとした。その後、日本の世界遺産についてのオリジナル冊子を配布し、冊子を見ながら日本の世界遺産に関するクロスワードを各グループで解いていった。

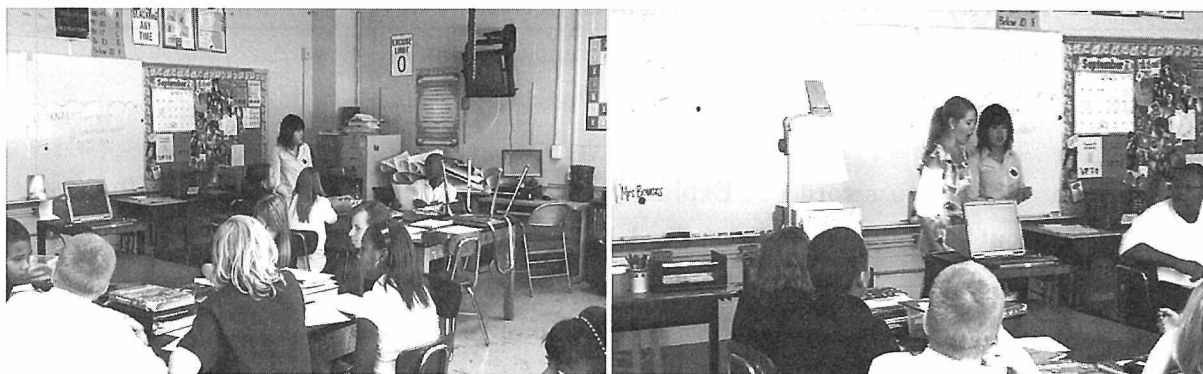
その後、各班でクロスワード作りに取り組んだ。本来は、アメリカの文化や歴史に関するクロスワードを作る予定であったが、子どもたちが「世界遺産」についてあまり知らなかったため食べ物や学校の紹介等、日本の同じ世代の子に解いてもらいたいクロスワードを作ってよいこととした。

最後は、半分のグループがクロスワードを作り終えたところで授業を終えた。

↓使用したスライド



↓授業の様子



3.5 考察

本授業の成果は、1つのオリジナル教材を作ったということ、そして日本の文化を紹介する際に「世界遺産」という世界で共通のトピックを扱ったという点にある。オリジナルの教材として、日本の「世界遺産」について、私自身がつたないながらも英語で冊子を作成した。また、異文化交流という、自分達の文化がいかに他の文化と違うかという点に注目しがちであるが、世界の人々が共通で認めている「世界遺産」というグローバルな視点を授業内容に取り入れたことが成果であるといえよう。

課題は大きく以下の2つが挙げられる。

1つ目の課題は、授業準備に関する課題である。今回の授業準備では、自分が話す言葉をきちんと英語に訳し、模擬授業を行うといった入念な授業準備ができていなかった。そのため、生徒に伝えなければならない内容をきちんと伝えることができなかつたのである。実際に授業をする中で、英語で伝えるのが難しい場合には、事前にどのようにすれば生徒たちが目で見えて理解できるのかをしっかりと考えておく必要があると痛感した。

2つ目の課題は、生徒たちの学習レベルの想定ができていなかったことである。今回のように生徒が具体的に想定できない状況で授業を行う際には、学習内容に幅を持たせ、柔軟に対応していく必要がある。授業者自身も、言葉で正確にコミュニケーションを取ることが出来ないという状況を考慮し、授業の教材内容をもっとシンプルでわかりやすいものにしておくべきであった。今回の「世界遺産」というテーマ設定は、私が授業を行ったクラスでは知っている生徒がほとんどおらず、まず世界遺産とは何なのかという説明が必要という点で戸惑ってしまった。解決の方法としては、事前に授業を行うクラスでアンケート等を行い、生徒たちが授業内容についてどの程度の知識を持っているのかを確認するという手法が考えられる。アメリカの子どもたちが日本についてどの程度の知識を持ち、どんなところに関心を持っているのかを事前にリサーチすることが出来れば、より子どもの実態に即した授業作りが可能になるであろう。

4 体験型海外教育実地研究における自己変容

4.1 教育観の変容

アメリカの学校教育で驚いたことは3つある。1つ目は、情報機器が充実しており、全ての教師がそれらの機器を活用していた点である。日本では、情報機器を使う能力、学校設備等の差が明らかに見られるが、アメリカではその差を全く感じる事がなかった。2点目は、校内掲示の見た目の明るさとポジティブな言葉の多さである。日本の掲示は、色は統一したり、規律的な言葉を使ったりしているものが多い。3つ目は、権利を守るためにルールを守るということである。アメリカというと「自由」なイメージがあり、実際に、授業中それぞれのレベルで自由に過ごしている学校もあった。しかし、きちんと規律があり、そこには「自由の権利はルールや原則の上に成り立っている」という考え方があると感じた。

4.2 自分自身についての変容

本研究に参加する前は、いかにわかりやすく説明するか、どうやって子どもに能力を身に付けさせるか、ということを中心に授業を考えるようになっていた。しかし、今回の実習を通して、知らないものに興味を持ち、新しいことを知った時には嬉しい気持ちになるという子どもの素直な学びを見ることができた。そして、日本でもいつか生徒たちがわくわくした気持ちになってくれるような授業がしたいと改めて思うようになった。

4.3 グローバルマインドに関する変容

日本でも海外の人と交流をする機会は何度かあったが、常に自分の方が基準であった。話す言葉は共通の「英語」を使っているが、周りには日本人、食事は箸を使って食べ、車は左走行、看板の文字は日本語…。これが逆の状態になり、全てが自分の基準と違う状態に置かれた時、初めて相手の生活や文化を理解することができたように思う。相手のこと、相手の国を理解するには、実際に相手の生活環境に入り込み、体験することが一番だと実感できた。

近年、急激に進む国際化の中で、他国を理解する学びだけでなく、国際交流や異文化体験を取り入れた授業がなされている。教室の中で本や映像から学ぶ海外よりも、自分が海外の人と交流したり、実際に海外に行ったりする体験の方が、本当の意味での国際理解に近づいていけると感じた。

5 おわりに

初めてのアメリカ渡航、初めての英語での授業、初めての海外の教授との話し合い…本当にすべてが初めての経験でした。参加する前は不安でいっぱいでしたが、先生方の細やかな指導と他の参加者の協力のおかげで、無事研修を終えることができました。本研修は、授業の開発研究という教師として自分の能力を成長させてくれただけでなく、その他の面でも自分を成長させてくれたと思います。

最後になりましたが、本研修を計画実施して下さった GPSC の関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。